

基 調 報 告

大会主題 「生きる力を育てる新聞教育」

I 十勝の新聞教育の歩み

本研究会は、1990（平成2）年に設立。新聞講習会、実践発表会、公開授業研等を積み重ね、1995（平成7）年には、第38回全国大会・北海道帯広大会を開催した。

翌年から、大樹町、新得町、芽室町、帯広市、音更町、幕別町、豊頃町、帯広市、鹿追町、帯広市、幕別町と管内市町村で新聞教育研究大会を開催してきた。全ての研究大会で公開授業を設定し、実践重視の研究団体として注目されてきた。また、全日日程で公開授業と提言発表を実施していたのを、2002（平成14）年から研究大会と実践発表を別日程で開催するようにした。これは先生方が参加しやすいように、昨今の学校事情等に配慮したものである。

2005（平成17）年には、北海道で2度目の全国新聞教育研究大会を帯広市で開催した。5本の公開授業と提言発表を行い、十勝の新聞教育に関わる熱意を質・量ともに示したのであった。昨年度は全国大会での成果と課題を受け、幕別町札内北小学校を会場に研究大会を開催し、さらに実践を積み重ねた。今後も十勝における新聞教育の充実と発展を期していかなばならない。

II 主題設定の理由

「変革の時代・国際競争の時代」といわれる今日、子どもたちが生涯にわたり学ぶ意欲を持ち、心豊かに生きる生涯学習の基礎を培うことが求められている。そのため、学校は地域と連携して特色を生かし、基礎学力の定着を図り「確かな学力」と「豊かな心」を育くみ、新しい時代にふさわしい学校づくりを目指す教育改革が進められている。

教師は、学ぶ意欲の形成を通して、子どもたちが自ら課題を発見し、主体的に判断・行動し、よりよく問題を解決する能力を身につけさせなければならない。学習指導要領は、基礎・基本を徹底し、自ら学び、自ら考える力等の「確かな学力」や「豊かな人間性」、「たくましく生きるための健康や体力」からなる「生きる力」を育むことを基本的なねらいとしている。

生きた教材としての新聞に親しみ、自ら課題を見つけ、主体的に考え判断して解決を図り、さらに新聞づくり等を通して情報として発信していくのが、新聞教育のねらいである。このことを考えると、新聞教育は、「生きる力」を育む教育活動として極めて効果的であることから、本主題を設定した。

III 新聞教育の類型

新聞教育は、各教科、道徳、特別活動、学級活動、新聞委員会の活動や総合的な学習の時間など様々な学習の場面で目的に即した活動がある。また、新聞は最新の情報、地域密着型の情報、実生活との関連情報など多様な情報の宝庫である。新聞を利用することで、現実社会を広く見据えた学習が可能となる。

これまでの実践により、新聞教育の具体的な学習のスタイル（学習類型）には、(1)新聞利用学習 (2)新聞づくり学習 (3)新聞機能学習があり、これらの学習を有機的に関連づけることの重要性が指摘されている。この関連性や具体的な学習活動の留意点は、別紙「北海道・十勝における新聞教育構想」を参照していただきたい。

IV 具体的な取り組みと課題

2006（平成18）年度に、十勝新聞教育研究会全会員にアンケート調査を行った。その結果、約7割の会員が「今年度（平成18年度）に新聞教育を実践した、実践の予定がある」との回答を得た。また今回の調査では、小規模校（複式校）から多くの具体的な実践例が報告された。

学校名	2006（平成18）年度1学期に 実施した分野は何ですか				2～3学期間に実施予定の分野は 何ですか				2005（平成17）年度に 実施した分野は何ですか			
	①. 新聞活用 学習	②. 新聞 づくり	③. 新聞機能 学習	④. 分野 がまたが る、答え にくい	①. 新聞活用 学習	②. 新聞 づくり	③. 新聞機能 学習	④. 分野 がまたが る、答え にくい	①. 新聞活用 学習	②. 新聞 づくり	③. 新聞機能 学習	④. 分野 がまたが る、答え にくい
幕別 糠内小				1	1	1			1			1
音更 緑陽台小		1			1	1				1		
足寄 芽登小	1	1			1	1			1	1	1	
足寄 大萱地小										1		
幕別 明倫小	1	1			1						1	
帯広 愛国小		1				1	1			1	1	
池田 高島中						1						
上士幌 高校	1				1	1			1	1		
	3	4	0	1	5	6	1	0	3	5	3	1

また課題として、①子どもたちの意欲の持続をどう図るか ②新聞づくりの基礎基本やNIE活動の基礎基本をどう身につけさせるかという、今まで実践報告がされていない部分の指摘もなされた。

V これから北海道十勝新聞教育研究会がめざすもの

先の取り組みから

- ① 新聞教育に関する意識を持続させ、学校内の活動から、家庭や地域、さらに学校相互の学習交流へ広げる。
- ② 小・中・高の実践交流を深め、発達段階に即した学習活動を位置づけ、教育課程を改善する。
- ③ 新聞教育の有効性・有用性を、多くの人に理解してもらえるように、実践と成果を検証し、積み上げる。

以上のことが、今後の課題である。

その解決に向けて、研究会会員を対象にしたアンケートの積み上げと会員外と比較検討を実施するなど、より一層成果と課題を明らかにする考えである。

また、これらの取り組みから、その学校から新聞研会員がいなくなっても新聞教育の活動が変わらない、いわば新聞教育における「十勝スタンダード」の確立に向けて、新たな取り組みが始まろうとしている。新しい教育の時代の中においても、私たちが新聞教育の「不易」と考えている「いつでも・どこでも・だれでも」できる新聞教育という理念を、掲げていきたい。

学校・学年・人数	幕別町立明倫小学校 5・6年（3名）
領域・教科	総合的な学習の時間
活動の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・かべ新聞づくり（2006年度） 修学旅行のまとめとして作成した。 ・新聞記事スクラップ（2006年度） 週に1回の宿題として取り組んでいる。 ・新聞づくり講座参加（2005年度） 十勝毎日新聞社主催のNIE新聞づくり講座で、作り方を学んだ。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事に興味・関心を持つようになった（TV欄以外にも） ・スクラップしたものに、自分で題をつける、文の感想を書く、要約することで、効果的な文を書けるようになった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的に新聞を活用し学習を進めていくには、どうしたらいいか。 ・好奇心をもって取り組みを継続させるには、どうしたらいいか。

学校・学年・人数	帯広市立愛国小学校 6年（8名）5年（4名）
領域・教科	学級活動、総合的な学習の時間、理科
活動の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・6年学活、総合 修学旅行の新聞づくり。 ・5年理科 新聞にある天気図、天気予報を活用した授業を行った。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・自主研修のまとめや、楽しかった旅行をふりかえるために有効であった。 ・新聞づくりを通して調べる力やまとめる力を養うことができた。 ・目に見える形で残すことで、達成感が得られたのではないかと思う。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞の基礎基本を指導する余裕がもっとあればよかった。 ・教育課程への位置づけと、毎年の見通し。

学校・学年・人数	帯広市立愛国小学校 3・4年（9名）
領域・教科	社会科 理科
活動の内容 （予定）	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞づくり 学習のまとめと発展のための新聞作成（帯広の農業、歴史について） ・月の満ち欠けについて、切り抜きを利用した学習を行った。

学校・学年・人数	幕別町立糠内小学校1・2年(6名)3・4年(5名)
領域・教科	生活科・総合的な学習の時間
活動の内容	新聞研OBの方に、学校に来ていただき、壁新聞の書き方を教えてもらった。他の学校の入賞作品を見せていただいた。書き方のポイント等をわかりやすく教えていただいた。
成果	壁新聞を書いたことがない子どもたちにとって、とても新鮮で「自分たちもやってみたい」と意欲づけになった。
課題	小規模校なので全校で取り組むことができたらもっと良かった。
学校・学年・人数	幕別町立糠内小学校1・2年(6名)
領域・教科	国語科・生活科
活動の内容 (予定)	<p>①生活科 地域の事を知るために、壁新聞を作成した(8月)。生活科で糠内獅子舞をするので、獅子舞保存会の人や、踊っている人にインタビューをし、新聞にまとめた。1人1記事を書いた。</p> <p>②国語科 はがき新聞を作成。 8月→夏の思い出(家族に出した)。 9月→敬老の日(おじいちゃん、おばあちゃんへ)。 10月→野手先生へお礼の手紙。 11月→学習発表会のお誘い 12月→季節の話題 ※3学期も継続 低学年には、とても取り組みやすい。作成時間1～2時間。5W1Hがはっきりして、作文指導にも効果的です。</p> <p>③生活科 染物を全校でしているなので、そのまとめ壁新聞の作成。</p> <p>④国語科 新聞の写真を用いた授業を考慮中。</p>

学校・学年・人数	音更町立緑陽台小学校 児童会新聞委員会（約20名）
領域・教科	特別活動（児童会活動）
活動の内容	児童会の委員会活動として、 ①定期的（2月1回）な新聞の発行 ・半期の活動として、3つのグループにわけ、各1回。 ②新聞コンクール（8月末）の計画 ・各学級で制作した新聞を廊下に掲示し、全校に紹介する活動を行った。
成果	・「全校に楽しんでもらえる新聞を作る」という目標を持ち、異学年が協力して新聞発行に取り組んだ。 ・テーマ（運動会等の行事を中心に）を決めて、取材を生かした記事や構成となるよう工夫して制作していた。
課題	委員会活動という時間の少なさや、新聞づくりの基礎基本を身につけさせること。

学校・学年・人数	池田町立高島中学校 全校（9名）
領域・教科	総合的な学習の時間（情報）
活動の内容 （予定）	35時間の時数を予定し、かべ新聞を作成。十勝子ども大会に出品した。

学校・学年・人数	上士幌高校 2年（38名）
領域・教科	見学旅行
活動の内容	・旅行先のポイントを事前に新聞形式でまとめる。また、事後に新聞形式で自主研修についてまとめる。
成果	・協力すること。 ・情報を得てまとめる力がつく。
学校・学年・人数	上士幌高校 2年（20名） 3年（20人）
領域・教科	2年～実用英語 3年～ライティング
活動の内容	英字新聞で世界の情勢、事件などを読む。
成果	日本語の新聞を読んで、知識をあらかじめ蓄えておかないと、英文記事の理解が難しいことを実感した。
課題	日常的に日本全国、世界の出来事を知るために新聞を読む習慣を身につけさせる。
学校・学年・人数	上士幌高校 1年（45名）
領域・教科	総合
活動の内容 （予定）	大学・専門学校体験学習で学んだことを新聞にする。